****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 343 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2012.12.27（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1111 部**********

先の衆議院選挙の結果をうけ、自民党・安倍内閣が発足しました。
原発維持・TPP 交渉参加路線が鮮明になりつつあります。
なんのための・だれのための政治なのか。重たい課題ではありますが、
これまで以上に目をふさぐわけにはいかない。
そんなふうに感じる年の瀬です。

□　目　次　□----------

＜巻頭言＞　日本の電気料金体系と再生可能エネルギーの
　　可能性について考えること　渡邊　博
＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.128』発行されました
＜イベントのご案内＞
公開討論会「原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道」
＜編集後記＞　自由貿易は誰のためのものなのか
――関 良基著『自由貿易神話解体新書―「関税」こそが雇用と食を守る』

＜巻頭言＞
日本の電気料金体系と再生可能エネルギーの可能性について考えること

■原発は本当に安いのか？

　国際的基準から見て最も安い電気は石炭火力であり、日本だけが原発が一番安いというのはどうも合点がいかない。実際日本の発電総量の 24%はインドネシアとオーストラリアから輸入した石炭が占めている。本当は高いはず（と筆者は思っているのだが）の原発を電力会社と原発村の人間はなぜ推進したがる

のだろうか。
　日本のエネルギー開発予算は米国を上回り 3423 万ドル（OECD2001 年報告）で世界最高である。しかも驚くことにその 7 割が原子力発電関連である。米国の約 8 倍、原発大国フランスの 6.6 倍にもなる。原発を推進するための何か隠された事情があるのだろうか。

■地域独占を止め、競争原理を電力事業にも導入すべきか？
　ある程度の競争は必要かもしれないが無原則となるとちょっと怖い。韓国で自由化を進め過ぎて大停電を引き起こしているのを見ると（2011 年）余計そう思う。日本の電気料金は発電、送電、販売等すべての諸費用に石油などの価格変動リスクを上乗せした総括原価方式を採用し、どんなことがあっても電力会社は損をしないようになっている。
　巨大な発電施設を作れば作るほど電力会社は儲かる。電力需要など関係ないのである。いかにも電力が不足しているように煽りながら、新たな原発を作ればよいのである。日本の発電設備稼働率は 50%程度で、諸外国（先進国は 70%程度）に比べて異常に低い事実は象徴的である。

■再生可能エネルギーとして有望なのは地熱発電では？
　日本における再生可能エネルギー発電は現在、全体の 1%にすぎない。そもそも開発予算すらまともに付いていないのだから、口で言うほど本気ではないのだろう。現時点で実現可能な再生エネルギー発電量は全体の 10%程度、原発の 45%程度が見込まれる（と私は思う）。
　再生可能エネルギーのなかでは稼働率が高い地熱発電が有望である。日本の地熱発電エネルギー賦存量（理論上の潜在的な産出量）は米国、フィリピンに次いで世界 3 位である。エネルギー賦存量は 2347 万 kw で原発の約半分を占める。もちろんすべてを開発するのは非現実的であろうから、当面 10%程度を開発したとしても 230 万 kw が見込めるので馬鹿にならない。
　しかも、風力や中小水力発電技術の殆どは外国製であり、太陽光パネルは中国産に取って代わられている中で、地熱発電技術だけは日本製が世界を席巻しているのである。温泉との競合など解決しなければならない課題は少なくないが、知恵を出しあえば解決できない問題ではないだろう。

　兎にも角にも、本当に電力は不足しているのか、本当の発電単価はいくらなのか、自然エネルギーはどこまで可能性が有るのか、世情に流されずニュートラルな視点で議論を深めていきたいものである。

渡邊　博
山崎農業研究所幹事
yamazaki@yamazaki-i.org

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.128』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.128』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

目次（抜粋）
《土と太陽と》（巻頭言）SRI の可能性について／山路永司
［第 141 回定例（現地）研究会］震災復興の方向性と課題を探る
◎非湛水除塩実験結果と自生するヒエに関する考察
　／後藤秀樹・渡邊 博・山本将礼・加藤健二・中村衆栄
◎3.11 大震災で被災した農業の早期復旧に向けて
　—宮城県試験研究機関連携プロジェクトについて
　／森川あけね
◎夢いちご生産組合と生産再開の状況／深沢政一
［第 142 回現地研究会］
近著『「農」を論ず』をもとに原論的問題提起／梶井 功
〈新連載〉“生きもの語り”の世界から（1）生きもの語りの誕生／宇根 豊
【随感】高橋昇（1892～1946）と「水稲畦立栽培法」について／塩谷哲夫
【書評】西尾敏彦編『昭和農業技術史への証言—第 9 集』／安富六郎

＜イベントのご案内＞
公開討論会「原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道」
［主催］ NPO 法人 日本有機農業技術会議［共催］日本有機農業学会、コモンズ

今回の原発事故を経験して、有機農業と原発は原理的に相容れないことを痛切に実感しました。同時に、有機農業は安全性論だけに依存しすぎていたことへの痛切な反省も迫られています。今回の公開討論会ではそうした認識を踏まえて、以下の諸点について語り合いたいと思います。

(1)放射能の危険性をどのように認識するのか。とくに、内部被曝と低線量被曝の危険性認識をめぐって。
(2)「危険だ、避難せよ」という判断と呼びかけをめぐって。農業と風土的暮らしは土地を捨てては成り立たない ことをどう考えるか。安全性の社会的保証と被災地復興の追求は、簡単には両立しないのではないか。
(3)放射能汚染の下で自然はこれからどのように推移していくのか。人は逃げられるが自然は逃げられない。
(4)科学者の役割とあり方。危険の中に生きる人びとへの助言も必要。煽ることからは、冷静な認識は生まれない。

【討論者】
▽小出裕章……京都大学原子炉実験所助教、著書『この国は原発事故から何を学んだのか』（幻冬舎）ほか
▽明峯哲夫……有機農業技術会議代表理事、共著『有機農業の技術と考え方』（コモンズ）ほか
▽中島紀一……茨城大学名誉教授、著書『有機農業政策と農の再生』（コモンズ）ほか
▽菅野正寿……福島県有機農業ネットワーク代表、共著『放射能に克つ農の営み』（コモンズ）ほか
【コーディネータ】
▽大江正章……コモンズ代表、著書『地域の力』（岩波書店）ほか

日時：2013 年 1 月 20 日（日） 13:30-17:00
場所：立教大学 池袋キャンパス　　マキムホール（15 号館）　M202 教室

主催： NPO 法人 日本有機農業技術会議
共催：日本有機農業学会、コモンズ
資料代：1,000 円（学生無料）

NPO 法人　有機農業技術会議・連絡先
Yuki-gijutsu@coast.ocn.ne.jp
　090-4520-7730(中島)　FAX 0299-44-0456（中島）

＜編集後記＞　自由貿易は誰のためのものなのか

――関 良基著『自由貿易神話解体新書―「関税」こそが雇用と食を守る』
（花伝社刊）

「自由貿易」といわれるとなぜ多くの人びとが思考停止ともいえる状態になってしまうのか。「自由」という言葉に抗いがたい価値があると思い込んでしまうからか。筆者は、今日の世界の窮状は「貿易の自由化と金融自由化の両輪が生み出した」と明言する。「自由貿易こそが、世界的な失業者と貧困層の増大、世界的な総需要の減衰、食料価格の高騰と飢餓人口の増大、地球環境破壊など、人類全体の存続を脅かす諸問題の根本的原因であるという事実を論じること」が本書のねらいだ。

本書を読みとくうえでまずはおさえておきたいのは「農業は収穫逓減（＝限界費用逓増）であり、工業は収穫逓増（＝限界費用逓減）」という基本的な原理だろう。これが意味するのは、農業製品はある点を超えると単位あたりの生産量が増加しにくくなり（生産量をふやすのに費用がいっそうかかるようになる）、工業生産は逆にある点を超えると単位あたりの生産費が安くなっていく（増産が容易になる）ということである。農産物価格が高騰しやすい理由や農産物が戦略物質となりやすい理由もここにあり、工業製品が市場拡大をめざしやすい理由も、さらには適切な関税が産業の育成や保護に有効な理由もここにある。

自由貿易を推進する側にとってこの「収穫逓増（＝限界費用逓減）」の原理は自身の行動をかりたてるものである。しかし、自由貿易によって他国への供給がふえたとしても、供給（輸出）国の内部で需要がふえるかどうかは保証のかぎりではない。そして自由貿易推進論者はそれによってもたらされるであろう生産性（市場競争力）の向上は声高にいうが、需要に与える影響についてはふれようとしない。

自由貿易の貫徹をめざそうとする TPP について筆者は「TPP の参加の是非をめぐって、日本対アメリカといった国と国の構図で語るのは間違いであろう。アメリカの 99%と日本の 99%にとっての共通の敵は、自らの私的利益のために政府を意のままに動かそうとするアメリカの 1%と日本の 1%である。日米両国の人々の連帯によって、日本と米国の 1%の人々の目論見を挫くべき」だと言う。自由貿易論は万民（99%）のためのものではなく、他者をおしのけて利益を求めようとする者（1%）のための論理なのである。

「自由貿易」について、それこそ自由な、曇りのない視点から考える素材が豊富に盛り込まれている本書は、政権交代によって安易な自由貿易論が加速しようとしているいまだからこそ、一人でも多くの人に読んでほしいと思う。

関 良基　著
『自由貿易神話解体新書
　「関税」こそが雇用と食と環境を守る』
花伝社刊、四六判並製　224 頁
定価：1500 円＋税
ISBN 978-7634-0643-9 C0036
発行　2012 年 9 月 20 日
http://www1a.biglobe.ne.jp/index/books/2012/201209ziyuboueki.html

2012 年 12 月 27 日
山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』

http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化

けの原因です。

次回　344 号の締め切りは 01 月 07 日、発行は 01 月 10 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞

****

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 343 号

最新号・バックナンバーの閲覧

http://archive.mag2.com/0000014872/index.html

http://nazuna.com/tom/denshico.html

購読申し込み／解除案内

http://www.yamazaki-i.org

2012.12.27（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人

mailto:yamazaki@yamazaki-i.org

**********ここまで『電子耕』**********